

石巻 ゆっくりり邑こども王国 プロジェクト

【プロジェクトの概要】

東日本大震災発生直後、「石巻高校トレーニング室避難所」に232名の人々が身を寄せた。当初は、同じ場所に暮らしているだけの関係だったが、水も電気も食料のすべてが不足する環境の中で、仕事を分担し合い助け合うことにより、次第に心が通い合い、みなし大家族のようなコミュニティが形成された。全てを喪失した大災害の中で生まれた奇跡であった。「東日本大震災圏域創生NPOセンター」の太田美智子と高橋信行がリーダーとなったこのコミュニティは、2011年10月の避難所解散後も、「石巻高校トレーニング室避難所家族会」として活動を続け、その「縁」を「結」に変えて、復興への道筋を歩んでいる。

石巻高校の避難所で7か月間、ともに生活した人々がつくった家族会。その後、各家庭が仮設・みなし仮設住宅・身寄り宅・自宅に分散したが、避難所で生まれた絆を保ちたいとの声が高まり、これに宮城県登米市東和町の人々が協調して、登米市相川の里山に新しい場を作る計画「かじか村子ども王国プロジェクト」をスタート。里山保全+震災避難所で生まれた絆の維持のプロジェクトである。毎月1回ほどメンバーが揃って宮城県相川の里山（かじか村）を訪問し、自然観察や農作業を行った。自然に触れる機会は避難所で暮らす人達の心を潤し、絆を深めた。

この地域の環境は自然の豊かさに加えて、土地利用の条件も整っており、子供たちを中心とした「未来の持続可能な新しいコミュニティづくり」を、ここでやりたいと考える起点となった。そして、この場所を拠点に、里山保全活動に取り組みながら、子どもたちを中心としたコミュニティづくりを目指す本プロジェクトは、心豊かな明るい社会づくりに貢献するものであり、家族会およびかじか村、他地域から参加した子供たちの自立心を養うのに大きく資するものであると考える。世代間の交流を通し、子どもたちが自然を学び、生きていく知恵を身につける機会にもなった。2014年9月には、「一般社団法人（非営利型）東北アイランド推進機構」を新たに立ち上げ、宮城県大崎市三本木の農家（1,700坪）を購入して、活動を継続中。



【活動目的】

① 自立とコミュニティ

震災から2年を経て、被災直後の避難所でコミュニティを形成できていれば、解決できていたであろう問題が復興地では起きており、これに、災害後のPTSDに象徴される心の問題が拍車をかけている。生活自立の困難さと、心の不安定という複層するこの事態を乗り越えるために、周りの共助の寄り添いと互助の見守りが欠かせない。その信頼関係を基盤にして、共に何かに取り組むことで自身を育て、共助の人間関係を育むことが必要である。震災から立ち上がり、再び地域を復興させていくためにも、次世代を担う子どもたちと共に里山活動を通して支え合い、分け合い、心身の健康を取り戻し、自立へと立ち向かう力を養うことを目指す。

② 里山保全・環境教育

活動場所となる宮城県登米市東和町米谷字相川は、宮城県北部、低山に囲まれた谷戸の里山（かじか村）である。昔、農山村では、薪や炭などの木質燃料確保のために樹木の伐採などが行われていたが、生活様式が変化した今ではほとんど見るものがなくなってしまった。かつては生

活と密接に結びついていた里山に人の手が入らなくなっている。

そこで、本プロジェクトでは、2012年11月に炭焼き窯打ちに取り掛かり、完成させ、12月には炭焼き作業を開始した。炭焼き作業、里山仕事の補助をしながら、仕事の取り組み方、昔からの里山の在り方、その地での暮らし方、自然とのむきあい方、そして里山と生活が一体となり営まれてきた日本文化を学んでいる。親子三代で関わり、担い手にバトンをつなぎ持続可能な環境を守っていくことを目指す。里山の森林には、野生生物や昆虫が生息しており、水田や水辺にも実にさまざまな生きものが生息している。この生きものの生息場所としてとても重要な環境を維持していくとともに、人と生きものが共生していくことができる場所作りを目指す。里山活動に関わることで、子どもたちが自然に関する知識を身につけ、自然と共生していく役割を体得する機会にしたい。

【活動内容】

1. 廃屋周辺整備および管理棟「陽だまりの家」建設準備

焼いた炭や作業備品の保管庫として利用するため、廃屋周辺を整備し、廃屋をリフォーム。敷地内にある崩れかけた蔵を撤去し、周辺の草刈りを行った。廃屋裏の納屋の壁を半透明塩ビの波板で補強。廃屋の屋根、壁を修復した。また、子供たちは被災して家を失い、今も仮住まいである。彼らの安全な居場所、遊び場の一つとして、「陽だまりの家」の建設準備を実施した。



2. 炭焼き窯打ち、炭焼き

災害時に備え、エネルギー源となる炭を備蓄し、またその工程を記録することを目的に、昔ながらの方法で炭焼き窯打ち、間伐材の切り出し、炭焼き（火入れ、窯出し）を実施した。



3. 親廟沢・扇山の生態系調査及び開発計画

環境学習、また開発計画の一環として、この地での自然がどのようなになっているか実情認識をするため、地元の人と共に子どもも交え動植物の生態系調査を実施。また、その中で散策路の確認をした。

4. その他

定例里山体験活動（サバイバルキャンプ、青空レストラン、子ども広場予定地開墾、イタヤカエデ植樹、イモ植えなど）

